

ただ 町政を質す!!

平成29年第2回町議会（定例会）

一般質問

今定例会では3人の議員が登壇し、多岐に渡り熱い議論が展開されました。 ※一部要約して記載

一般質問

佐藤

昇 議員



問

平成27年度における指定寄附金、ふるさと納税寄付金の合計額は、約5253万円（うちふるさと納税寄附金約2880万円）となっております。貴重な財源の一つとなっております。

今後においても、寄附をいただいた方々への親切・丁寧な事後対応を行い、より多くのご寄附をいただくとともに、更なる制度の有効活用を図るべきと考えます。

（1）寄附金申込書における使途の項目は大きく4項目となっており、さらに別建てで「いこいの森災害復旧に対するご

問

応援いただいた方に対する事後の対応を

答

ホームページなどを通じてお知らせしたい

支援」の呼びかけをホームページ上で行っている

ですが、町の進めている重要課題（例えば町民センターの建設、ジオパークの推進など）の具体的な事業を項目に加えてはどうか。または、PRを兼ねた町の事業展開などを具体的に明らかにした上で、そうした事業に対する寄附をお願いするなどの工夫も必要と考える

（2）その上で、事業として実際に活用された使用額、経過報告、活用成果等、寄附をいただいた方々にキメ細かく文書等で個別にお知らせし

町長

（1）遠軽町においては、昨年度の実績として2500件を超えるご寄附をいただき、また、丸瀬布森林公園いこいの森災害復旧に対しても全国の鉄道ファンやキャンプ場利用者の皆様から「遠軽町ふるさと納税寄附金制度」を活用され、70件を超えるご寄附をいただいたところで、こうしたことから、

寄附金の使途について具体的な事業などを項目に加えることは、有効な手段だと考えていますので今後、具体的な事業について検討したいと考えています。

（2）新たに加えた事業や、いこいの森の災害復旧に寄せられたご寄附の期待に応えるためにも、活用の成果等につきましては、今後ホームページなどを通じて周知していきたいと考えています。

再質問

ふるさと納税の27年度における使途別の実績は。

再々問

自治体によっては、個別に文書で郵送しているところもあり、多少の経費負担はあるが、そうしたことも考えた方がよいのでは。

町長

そのことも含めて答弁させていただきましたが、事務作業、人件費の問題もあり、さらに検討したいと考えています。

総務課長

使 途 項 目	件 数	金額(千円)
ふるさと振興資金	1,628	11,739
福祉振興資金	303	1,935
産業振興資金	258	1,790
教育振興資金	286	2,020
その他	87	11,310
合 計	2,562	28,794

ただ 町政を質す!!

一般質問

阿部 君枝 議員



問

AED（自動体外式除細動器）
の適切な管理と表示を

答

設置場所について周知を図りたい

問 自動体外式除細動器（以下「AED」）につ

いては、救急救命で使用される際に、管理の不備により性能を発揮できないなどの重大な事態の発生を予防するため平成21年に厚生労働省医政局長等により、適切な管理方法について各関係機関に通知されております。

また、AEDの管理者が適切な維持管理の方法を理解する必要と、広く普及している現状を踏まえ、広報等の活用も検討され平成25年再通知されています。

町の各施設にAEDが設置されており、その使

い方について消防で講習会が開催されております。そこで、次の2点について町長の考えを伺います。

（1）救急救命はいつ起こるかわからない上に、電磁パットやバッテリー等には期限があります。使用する際になつて使えないのでは宝のもちぐされになります。

町内のどの施設に何台あり、いつ頃の製造か、誰がメンテナンスを行っているか伺います。

（2）また、救急車の平均到着時間は8・6分と言われています。心肺停止から1分ごとに救命

率は、7〜10%下がると聞いております。そのためにも、一元的な管理とわかりやすい表示をすべきと考えますが、町長の見解を伺います。

町長 （1）遠軽町が管理しているAEDは公共施設40か所に40台で、平成21年〜28年までの製造で、それぞれの施設の管理者が管理しております。メンテナンスについては、購入先の業者、リース会社が行っています。

（2）現在、遠軽町が管理しているAEDは、総務部総務課がとりまとめをしておりますが、設

置している公共施設については、周知をしておりませんでしたが、今後ホームページなどを通じて周知を図って参りたいと考えております。

また、各公共施設に設置している場所については、施設の管理者に、さらにわかりやすい表示をするよう指示します。

再問 厚生労働省の人口動態統計によれば、全国

の心疾患（心筋梗塞・虚血性心疾患・不整脈・心不全）による死亡者数は、

年々増加傾向にあります。119番通報により救急車が到着後、AEDを

含む救急救命をするまでには、さらに時間を要することもあり、その間、時間経過とともに救命の可能性は低下することとなります。

このため、救急車の到着を待つことなくAEDを作動させることが何より重要ですが今後の町の考えは。

町長 施設の管理をしっかりと行うとともに、施設職員が実際に使えるように訓練を重ねてまいります。

大事なことは、町民の方々が講習を受けていただき、習熟することが重要であります。

要であります。



高校生に対する講習会の模様

一般質問

岩澤 武征 議員



ただ 町政を質す!!

問 今、日本では子どもの貧困が深刻で、6人に1人と言われます。

2月13日に発表された北海道の「子どもの貧困に関する全道実態調査」では、子育て世帯の約7割が厳しい生活をしています。貧困の解決は社会全体の課題ですが、貧困を次世代に連鎖させないという点で、子どもの貧困対策は待ったなしの課題として政治に求められています。

準要保護の入学準備金を必要とする時期に支給できないか。

文科省はこの件で「児童・生徒が援助を必要と

問

子どもの貧困問題と子育て支援について

答

関係機関・団体と連携し総合的に進める

している時期に速やかに支給できるよう配慮するように」と通知を出しています。遠軽町でも3月支給はできないか。

あくまでも要保護児童生徒に限ってのことで拙速に準要保護も同様にすることはできません。

教育長 文科省の趣旨は、

低所得世帯の児童・生徒に対する学習支援を行っている学習センター「ふくろう」に協力を北海道の委託を受けて管内15町村活動し、遠軽では11人の小・中・高生が参加している。町では活動

場所の使用料を払っているが、無料にできないか。

教育部長 相談があれば、のつていきたいと考えています。

問 給付型奨学金について、町の貴重な人材を育てる観点に立って経済的理由によって進学を諦めなければならない若者が町で応援することは家族や本人にとって希望となりますが、検討すべきではないか。

町長 奨学金を給付することは相応の財源が必要であることから、国・道

問 丸瀬布厚生病院無床化について

答 在宅医療の推進に取り組みます

問 丸瀬布厚生病院の地域医療活動をどのように評価し、今後の地域医療のあり方をどのように考えていますか。

町長 平成16年に現在の施設に改築されて、診療圏域を丸瀬布、白滝地域

として運営されています。この間、圏域人口が1万2千人を超える時期もあり、地域住民の命を守るとともに、「養護老人ホーム緑の園」「ヒルトップハイツ」建設後は医療機関が身近にあることで入所を希望する方の選択肢の一つとなっており、十分評価しています。

今後の地域医療のあり方については、昨年策定された北海道地域医療構想によると医療病床の一部は在宅医療で対応としています。

しかし、遠軽地区は在宅医療の空白地とされており、そのため現在、紋別保健所が中心となって「遠紋圏域在宅医療推進ネットワーク協議会」を設置し検討を進めているところであり、本町も同協議会と連携して取り組んでいきたいと考えております。